

子どもの安全を守る ためのマニュアル

2025年度



一般社団法人さくらキャンプ

さくらキャンプ三島

さくらキャンプ三島四季

さくらキャンプ函南

さくらキャンプ函南HITA

さくらキャンプ相談支援事業所

目次

◇ 「みんなで取り組む事故予防」	
Ⅰ 事故防止（予防）	
1 事故を未然に防ぐために～危機管理（リスク・マネジメント）	3頁
- 福祉・保育施設等で起こる「事故」と「ヒヤリハット」	
- リスクについての情報共有・伝達	
- 事故防止(予防)のための具体的な取組み	
2 こどもの目線で安全環境を整備する	
～日常の安全管理（セーフティ・マネジメント）	
① 安全対策・安全点検	
② 事故防止のためのチェックリスト	
<具体例> 園外活動（散歩・園外保育）	
Ⅱ 事故発生時の対応 ～危機対応（クライシス・マネジメント）	6頁
- 事故発生時の段階的な対応	
- 事故の再発防止に向けた取組み	
- 救命処置（心肺蘇生）	
- 119 番通報	
- 重大事故発生後の対応と役割分担	
◇ 睡眠時安全マニュアル 「まず確認！ 睡眠中も保育中」	10頁
◇ プール活動・水遊び安全マニュアル「もちろん配置！ 水遊びには監視役」	16頁
◇ 児童送迎マニュアル	25頁
◇ 不審者・不審電話対応マニュアル	29頁

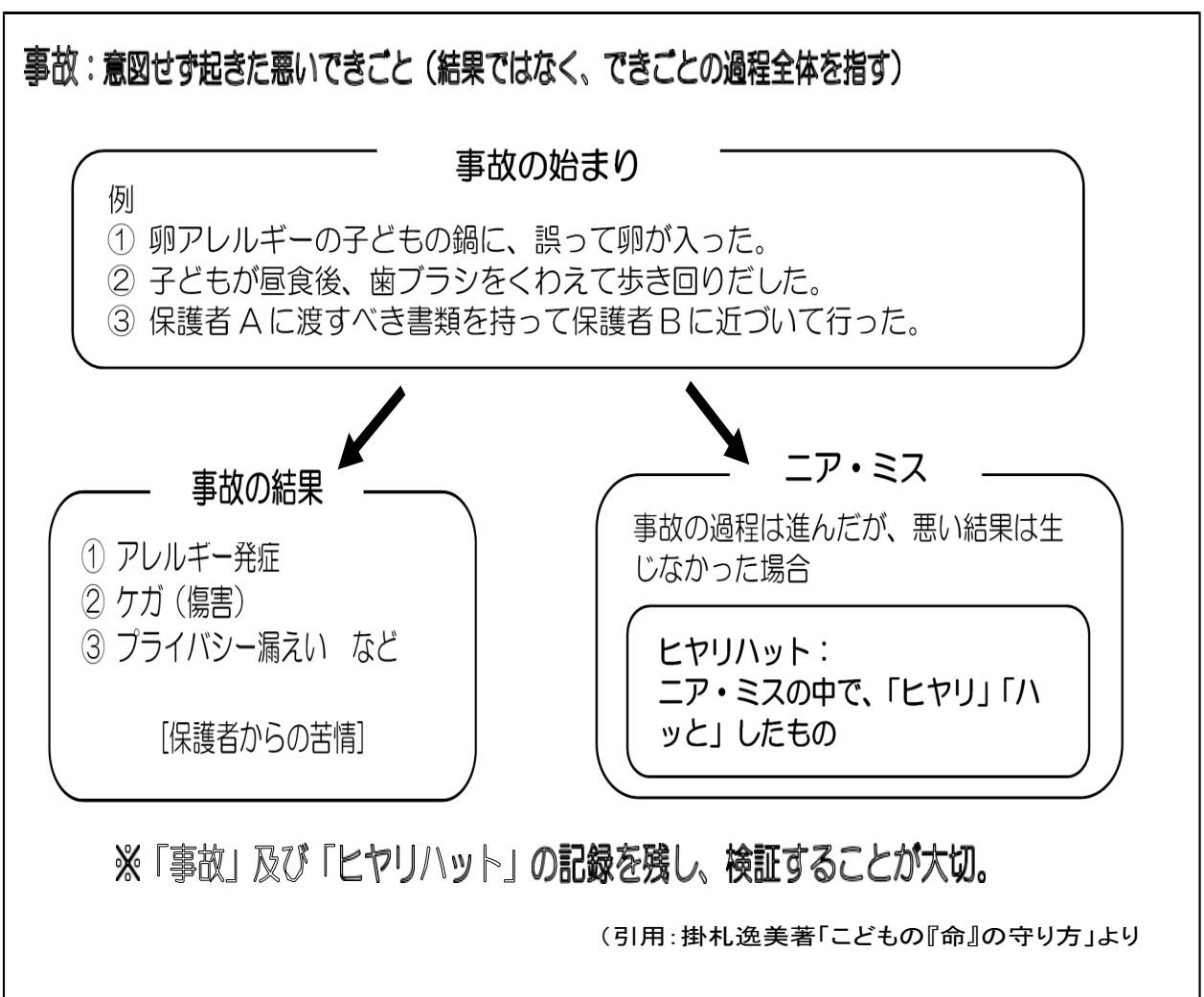
※このマニュアルは大阪市立保育所における安全管理マニュアル集を参考に作成しました

I 事故防止（予防）

1. 事故を未然に防ぐために

こどもが生活の中で深刻な危害を受けることを防ぐために。具体的に対策をとることがリスクアセスメント。

○ 福祉・保育施設等で起こる「事故」と「ヒヤリハット」とは

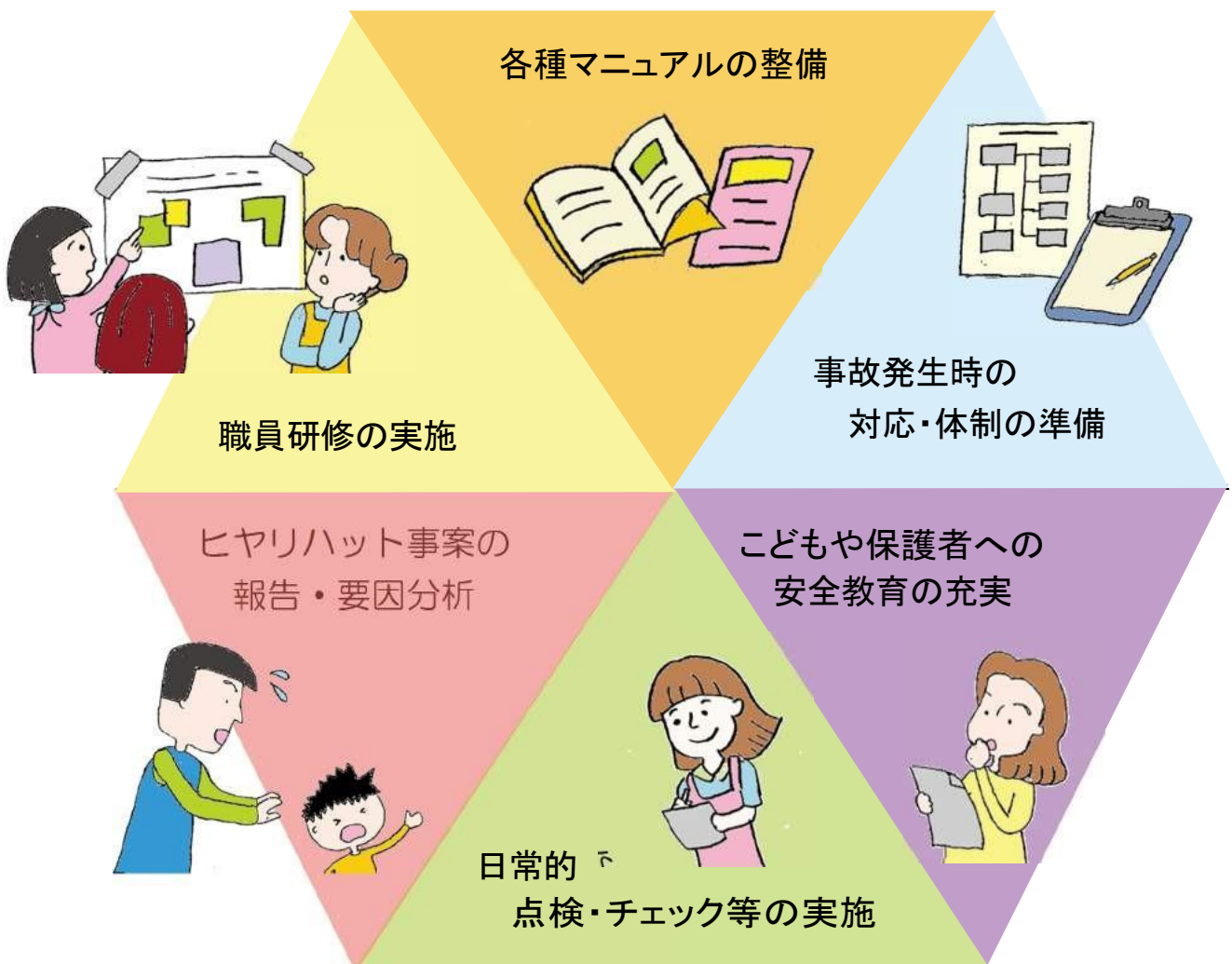


職員や保護者との間でリスクについて情報共有や伝達を行い相互理解を深める。

＜具体例＞

リスク要因	情報共有や伝達を行う内容
睡眠時の事故	睡眠時のリスク、入園初期の危険性、園での対策、家庭で気をつけること等
プール(水)遊び	プール(水)遊びにおけるリスク、園での対策、家庭で気をつけること等
誤嚥・誤飲・窒息	生活の中の誤嚥・誤飲・窒息のリスク、園での対策、家庭で気をつけること等
感染症	流行の状況、罹患したときの対応、園での感染拡大防止の取組み、家庭での予防策等（個人情報の取扱いに気をつける）
活動時のケガ	成長の中で“ケガは起こりうるもの”ということ、園における安全のための対策等
友だちとのけんか	成長過程では友だちとけんかすることも大切な経験であること、けんかの中でケガがあったときの園の対応等
その他のリスク要因	⇒「かむ・ひっかく」「門から出る時の注意」等

事故防止(予防)のための具体的な取組み



2 こどもの目線で安全環境を整備する ～日常の安全管理（セーフティ・マネジメント）～

① 安全対策・安全点検

「誰かが見ていてくれると思っていた」ではなく、声を掛け合い常に子どもの動きの把握をする」

② 事故防止のためのチェックリスト

「子どもの年齢や時間帯・支援内容」に応じ事故防止のためのチェックリストを活用する

3. 事前の調査と確認で子どもたちの安全を確保する

〔野外活動（散歩）・社会体験〕

- ①計画 こどもの力、環境、交通ルート等を十分に考慮し、無理のない場所・行程にする。
- ②下見 下見を行い、危険個所を把握し対策を講じる
(こどもの発達過程・興味をふまえ ねらい を明確にする。)
- ③情報共有 計画や注意点を共有し職員の連携等が円滑にできるようにしておく。
(日程や案内図などを職員LINEなどで共有する)

★ < 当日の注意事項 >

準備物（メモ帳、ビニール袋、防犯ブザー、携帯電話等）を用意する。

★ 事故が起こった時に備え、医療機関、交番等を確認しておく。

< 当日の注意事項 >

☆当日のこどもの健康状態を把握する。（体調不良の時は無理をしないようにする。）

☆要所ごとに人数確認 。

☆職員間で連携し、こどもの行動に注意を払う。

☆全体の動きを確認しながら、こどもを安全に誘導する 。

Ⅱ 事故発生時の対応

事故が起これば、どうすればいいか ～危機対応（クライシス・マネジメント）～

・事故発生時の段階的な対応

役割分担し、同時に進める

項目	対応方針
① 事故発生直後	心肺蘇生 応急処置 119番通報 事故の状況を的確に把握し、記録する。(こどもの状態、現場・周囲の状況等) 事故発生現場はできる限り、現状保存する。 ※職員は事故の状況やこどもの様子に動揺せず冷静に行動する。また、こどもの不安を軽減するように配慮し、対応する。
② 保護者への連絡	事故の発生について連絡し、分かっている事実を正確に説明する。 ※状況を確認できている範囲内において説明する。
③ 関係者への連絡	静岡県福祉指導課・三島市障がい福祉課・法人本部へ連絡する。 ※事故発生時の状況を報告し、必要であれば助言・指導を受ける。
④ 保育の継続	事故に遭った子ども以外の保育を継続する。 ※職員は役割を分担し、事故の対応と保育を実施する者に分かれて対応する。
⑤ 事故状況の記録	状況がわかる職員は自分の把握している情報を出し合い、事故当日にできる限り早く事故の状況を時系列にまとめた記録を作成する。 ※重大事故の場合は、まず職員一人一人が自分の記憶をもとに他人と相談せず、記録を作成する。
⑥ 保護者への対応	事故の発生状況について、的確に報告する。(状況により保護者説明会を開催する。) ※保護者の心理を踏まえ、その意向を丁寧に確認しながら誠意をもって対応する。 ※保護者、職員、その他の子どもへの心のケア(精神面でのフォロー)が必要となる場合があることにも留意する。
⑦ 報道機関への対応	報道機関への対応が求められる場合、対応窓口を一本化し、情報の混乱を防ぐ。 ※報道機関への対応を行う場合、市(保育企画課)と連携する。 ※事実関係や事故の再発防止への取組みを整理しておく。
⑧ 市への事故報告	事故報告書の様式に必要な事項を記入し、県(福祉指導課)へ報告する。(P 資 32～) ※原則、第一報は事故発生当日(遅くとも事故発生翌日)に報告する。
④ 事実関係の整理	職員の記録や現場確認の結果をまとめて、事実関係を整理する。 ※記録の内容をもとに、市の担当者とともに事実関係を詳細に整理する。
⑩ 明らかな危険要因への対応	明らかな危険要因については、検証結果を待たずに具体的対策をとる。 ※例えば、危険性のある食材や玩具等を除去し、注意喚起を行う。
④ 事故後の検証	整理された事実関係をもとに、事故の問題点・反省点の考察を行い、改善する。 また、事故の検証を行い、再発防止策を示す。 ※死亡事故等の重大事故については、子ども・子育て支援会議 教育・保育施設等事故検証部会で検証する。

事故の再発防止に向けた取組み

- ・事故の検証を踏まえて、すでに発生した事故が防げるものだったのか、今後、類似の事故の発生防止のために何をすべきか、という視点で **具体的に再発防止策の検討**
- ・事件事例の経過をもとに **シミュレーション**
- ・必要に応じて、保有する情報を保護者に伝える
保護者へ情報発信

救命処置

発見者！直ちに！その場で！対応開始！



反応を見る！

肩や背中をたたきながら大声で呼びかけても

何らかの応答やしぐさがなければ「反応なし」

周りに知らせる！119番通報す

呼吸を見る！



呼吸をしていない時、即座にその場で人工呼吸開始！

反応がなく、呼吸がないか、死戦期呼吸【口をパクパク「あえぐような」呼吸】が認められる場合は心停止と判断、心肺蘇生(CPR)の適応と判断し、ただちに人工呼吸・胸骨圧迫を開始する

※睡眠中は突然死が考えられるため、すばやく見極め緊急度を判断！口腔内に何もなければ確認！

心肺蘇生(CPR)

(胸骨圧迫30回:2回人工呼吸)

強く・早く・絶え間なく！ 中断しないこと！

呼吸が重要！

胸骨圧迫！

1歳以上



- 片手の付け根で
- 乳首を結ぶ線の真ん中
- 胸の厚さ約 1/3 ぐぼむまで
- 少なくとも100~120回/分

1歳以上は口対口人工呼吸(鼻はつまむ)

1歳未満



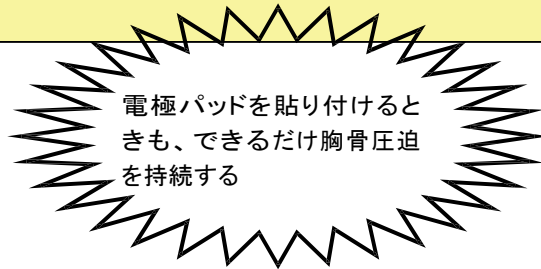
- 中指・薬指の2本で
- 乳頭を結ぶ線の少し下
- 胸の厚さ約 1/3 ぐぼむまで
- 少なくとも100~120回/分

心肺蘇生は救急隊に引き継ぐまで続ける！



AED のメッセージに従う

AED のメッセージに従う



必要なし

「不要」と音声 flowed たら、ただちに、心肺蘇生を再開する

※職員は AED がどこに設置されているのかを把握しておく

「必要」と音声 flowed たら音声に従い電気ショックボタンを押すその後、心肺蘇生を再開する

救急車要請時(119番)に伝えること

《119番通報》

種類・「**救急**です。」

場所・「住所は**函南町肥田725**の**さくらキャンプ函南HITA**です。」

「目標物は**妙法寺**でその北側道路を挟んで真裏にあります」

通報者・「私は**さくらキャンプ函南**の〇〇です。
電話番号は **055-928-9288**
です。」

被害状況(参考例)

〇歳児(小学〇年生)男子が転んで頭を打ち、出血していますが泣いており意識はあります。

※こどもの状態を聞かれたら簡潔に伝える。

年中無休
静岡こども救急
電話相談
受診した方が良いのか、様子を見ても大丈夫なのか、
看護師や小児科医が電話でアドバイスします。
プッシュ留線の緊急電話、
携帯電話からは、局番なしの **#8000**
054-247-9910
相談時間 平日 24時間
土日 日曜・祝日

